

インフルエンザが流行中です。

2013.02.06

昨年12月の豪雪から一転して、1月は寒いものの雪はそれほどでもなく、少し過ごしやすい日々が続きました。冬休み中は閑散とした小児科も、学校が始まった1月中旬からすこしずつ忙しくなりました。

例年よりやや早く、1月の中旬頃からインフルエンザの流行が始まりました。突然の39度台の発熱、関節痛、倦怠感などがあり、インフルエンザの迅速検査をすると約半数の方から陽性の反応が出ているようです。

今年のインフルエンザ、型の判る迅速検査からは、A香港型が流行しているようです。一部にB型の反応が出ているお子さんもいますが、流行というほどの広がりはなく、今のところB型は優勢にはなっていません。

今年の特徴は、大人から始まったこと、のどの痛みを訴える人が多いということ、軽症の経過をたどる人が多いなどです。現在のところ、脳症などの重い合併症が出ているという報告は聞こえてはきません。ただ、インフルエンザの迅速検査が陰性で発熱が続いているお子さんの中には、細菌の感染が疑われる例が散見されますので、熱の経過には注意を払って診てもらいたいものです。

今シーズンから出席開始時期の取り決めが少し厳しくなりました。6歳以下の保育園児、幼稚園児は熱が出た日を0日として5日間か熱が下がって丸3日のどちらか長い方、小学生以上は熱が出て5日間か熱が下がって2日間のどちらか長い方を家庭での安静期間とするように変更になりました。つまり、2月1日から発熱が始まると2月6日まではお休みで出席開始は2月7日となります。2月7日に出席開始するためには、保育園児などは2月4日の朝から熱がないこと、小学生以上は2月5日から熱がないことが条件となります。

毎年のことですが、発熱してすぐは迅速検査での判断ができません。痙攣、意識の混濁がなければ、夜中に熱を出してもつぎの日の朝の受診で十分対応できますので、疲弊している小児科医にわずかな睡眠を与えてくれたらと思います。皆様のご協力をよろしく願います。